2026年 夏号 Vol.44
2026年8月発行　年2回発行

藤医会

藤医会会報

藤田医科大学医学部同窓会

表 紙 ｜ 藤田医科大学東京 先端医療研究センター、藤田医科大学 羽田クリニック

藤医会・・・

本学医学部卒業生（正会員）と大学院医学研究科卒業生（大学院卒業会員）ならびに在学生（学生会員）により運営されている同窓会組織です。1978年に第一回目の医学部卒業生の誕生と同時に設立されました。設立の目的は「会員相互の親睦と交流を図り、母校の発展と医学・医療の振興に貢献すること」にあります。おもな活動には会誌の発行、会員名簿の作成、教育・学術講演会の企画、懇親会の開催などがあり、会員間の情報交換の促進をはかり、親睦を深めることに寄与しています。そのほか、在学生の学習環境の整備と課外活動の充実を目的とした援助をおこなっております。今後も、会員サービス、後進の支援、母校への協力を三本の柱として活動していく予定です。

目　次

旭日双光章を受章して　P2
藤田医科大学ばんたね病院 循環器内科教授就任のご挨拶　P3
病院教授を拝命して　P4
医学部 消化器外科学講座 主任教授を拝命して　P5
医学部皮膚科学ばんたね病院(美容皮膚科、レーザー治療)臨床教授を拝命して　P6
藤医会新任副会長のご紹介　P7
令和7年度 藤医会総会　P8
令和7年度 藤医会 収支計算書・活動報告　P10
令和8年度 藤医会 収支予算案・活動予定　P11
藤医会卒業生教授就任記念講演会・懇親会　P12
支部会だより　P14
支部会からのお知らせ　P15
同窓会開催報告　P16
「藤医会若手医師を応援する会」を開催しました　P17
第120回(2025年度)医師国家試験の結果　P18
ご入学おめでとう　P19
藤医会からのご案内　P20

旭日双光章を受章して

日本医師会　常任理事
細川 秀一（4回生）

1981年卒業（4回生）の細川秀一です。この度、令和8年春の叙勲に際しましてはからずも旭日双光章受章の栄誉を賜り身に余る光栄と感謝致しております。去る令和8年5月13日に厚生労働省におきまして受章の伝達を受け、引き続き皇居に参内し天皇陛下に拝謁とともに暖かい励ましのお言葉まで承り、我が人生の中で感激の極みでした。

また、5月16日に開催されました「藤医会若手医師を応援する会」にてご挨拶の機会いただき誠にありがとうございました。

1975年その頃の名古屋保健衛生大学に入学して医師としての知識、心構え、パラメディカルへの思いやり、何より患者さんに対しての対応などを6年間教えていただき、卒後すぐに八事にある赤十字病院に入職致しました。その後1995年まで心臓血管外科医として5か所の病院勤務後、名古屋市中村区にて外科クリニックを開業いたしまして31年経過いたしました。その間一般診療以外にも救急車受け入れとか地域貢献として保健所協力、学校医、警察協力として検案業務、留置人健康管理など多岐にかかわらせて頂きました。

新型コロナ感染症初期には、収容施設に出向きPCR検査の実施、また名古屋市武道館にて1か月に渡る入院待機ステーションにて管理、当直も経験させて頂きました。

平成24年4月からは、愛知県医師会理事に就任し12年にわたり救急災害医療を担当し東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害など、現地に赴き被災者の健康支援などを行ってまいりました。

また令和4年6月26日より日本医師会常任理事に就任し4年間、救急災害医療、環境保健、医療安全、労災・自賠責、検案の主担当理事として会務を行ってまいりました。

今年満70歳を迎え人生を振り返り、出会うことが出来た全ての方々、全ての経験に心からの感謝をしております。

今後は、この栄誉に恥じないように一層精進致す所存でありますのでこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

過去の褒章受賞者（2023年～2026年）

2023年	春の叙勲	稲坂　博	先生（2回生）	旭日双光章
2023年	秋の叙勲	小渡　敬	先生（1回生）	旭日双光章
2023年	秋の叙勲	洞庭　賢一	先生（1回生）	旭日双光章
2024年	春の叙勲	中村　康一	先生（2回生）	旭日双光章
2026年	春の叙勲	細川　秀一	先生（4回生）	旭日双光章

藤田医科大学ばんたね病院 循環器内科 教授就任のご挨拶

藤田医科大学ばんたね病院 循環器内科　教授
祖父江 嘉洋（23回生）

このたび2026年4月1日付で、藤田医科大学ばんたね病院循環器内科教授を拝命いたしました。就任にあたり、藤医会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。また、これまでご指導、ご支援を賜りました諸先生方、同門の先生方、そして多くの医療スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

私は2000年に藤田保健衛生大学医学部を卒業後、名古屋記念病院にて初期研修を行い、その後、藤田保健衛生大学循環器内科（菱田仁士教授）に入局いたしました。4年目より、現在のばんたね病院循環器内科教授である渡邉英一先生のご指導のもと、不整脈診療を中心に、循環器疾患の診療、研究、教育に携わってまいりました。10年にわたり藤田医科大学で研鑽を積み、2015年からは2年間、カナダ・モントリオール心臓研究所へ留学し、Stanley Nattel先生のもとで心房細動に関する基礎研究に従事しました。

留学生活は決して平坦ではありませんでした。臨床中心で過ごしてきた自分にとって、英語環境の中で基礎研究を一から学ぶことは大きな挑戦でした。しかし、多くの仲間や家族に支えられながら研究に没頭した2年間は、医師としてだけでなく、一人の人間としても大きく成長でき、最も苦しく、同時に最も貴重な時間でした。帰国後は、「藤田から世界へ」という思いを、若い世代にも伝えていきたいと考えるようになりました。

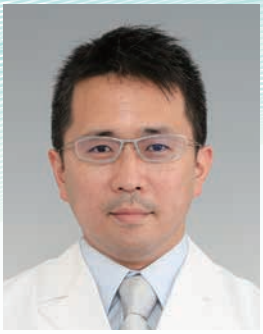
2年間、基礎研究のみの生活を送ったことで、臨床へ復帰するにあたり、これまで以上に多くの診療経験を積める環境を求め、国内有数の症例数を有する岐阜ハートセンターで勤務する機会をいただきました。岐阜ハートセンターでの3年間は、冠動脈インターベンション、不整脈、心不全など数多くの循環器診療に携わり、特にカテーテル治療において非常に多くの症例経験を積むことができ、現在の診療の礎となっています。

その後、ばんたね病院循環器内科へ赴任し、その診療経験を生かして新たに不整脈アブレーション治療を立ち上げました。現在は心房細動アブレーションを中心に、患者さんに低侵襲で安全な治療を提供できる体制づくりに努めています。近年、不整脈治療は急速に進歩しており、パルスフィールドアブレーション（PFA）など新しい治療技術も登場しています。ばんたね病院においても、地域の患者さんに高度な不整脈治療を提供できる施設として、更なる発展を目指しています。

また近年は、AIを用いた心電図解析や心臓CT画像解析など、循環器領域における新しい医療技術の研究にも取り組んでいます。AI技術は循環器診療に大きな変革をもたらしつつあります。一方で、どれほど技術が進歩しても、患者さん一人ひとりに寄り添う医療の本質は変わらないと感じています。最先端医療と温かい地域医療の両立を目指し、ばんたね病院らしい循環器診療を発展させていきたいと考えております。

大学病院の役割は、診療のみならず、教育と研究にあります。次世代を担う若い先生方に、臨床の面白さ、研究の楽しさ、そして海外へ挑戦する大切さを伝えていきたいと思っています。私自身、多くの先生方との出会いに育てていただきました。今後は、自分が受けてきた恩を次の世代へつなげていくことが使命であると感じています。

まだまだ微力ではございますが、ばんたね病院循環器内科、そして藤田医科大学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。藤医会同窓の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



病院教授を拝命して

岡崎医療センター 麻酔科　教授
栗山 直英（27回生）

この度、2026年4月1日付をもちまして藤田医科大学　岡崎医療センター麻酔科の病院教授を拝命いたしました。就任にあたり藤医会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1998年に藤田保健衛生大学に入学しました。2004年に卒業後、愛知厚生連海南病院にて初期研修を行いました。その当時は、呼吸器内科医であった父の影響もあり、呼吸器内科、総合診療科への進路を考えておりました。研修先の麻酔科は、術中麻酔管理だけではなく集中治療医としても診療活動をしており、重症呼吸不全などの全身管理を学ぶために後期研修先として海南病院　麻酔科を選びました。麻酔科医として2年目の2008年3月、海南病院の麻酔科部長であった西田修先生が藤田保健衛生大学 麻酔・侵襲制御医学講座の初代主任教授に就任された際に、中村智之先生（現麻酔・集中治療医学講座主任教授）とともに3人で藤田保健衛生大学に参りました。術中麻酔管理業務から始まり、2009年6月にはICUでの治療に携るようになりました。敗血症、急性呼吸不全、急性血液浄化療法などの臨床研究を行い、2014年からは米国ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院麻酔科に海外留学を行いました。重症熱傷によるミトコンドリア機能障害に対して、コエンザイムQ10補充療法を行う臨床研究と敗血症による好中球遊走能障害メカニズムの解明の基礎研究を行いました。帰国した2016年10月から医局長をとなり、後進の指導、医局の運営等に携わってまいりました。研究面でも敗血症、急性血液浄化療法の臨床研究を行い、2021年に西田修先生のご指導もと医学博士を取得しました。

手術は予定された外傷であり、その外科的侵襲から生体を防御するための行為が「麻酔」です。麻酔には気道管理、呼吸・循環管理、鎮痛・鎮静管理といった医師としての基本的な技術・知識が凝集されており、我々は麻酔で培った経験をもとに重症患者に対する全身管理を行っています。院内最後の砦であるのにも関わらず普段は目立たない麻酔科ですが、これまでの管理では諦めるしかなかった症例を救命する、麻酔を軸とした全身管理の奥深さと面白さに共感した70名以上が入局してくれました。他職種・他診療科との連携を強化し、急性血液浄化・ECMOの研鑽を積み、新型コロナウイルス感染症のパンデミック期には、他施設で管理が出来ない超重症呼吸不全症例に対しVV-ECMOを中心とした集中治療を実践し、全国有数のECMO治療実績を有する施設となりました。

今回赴任した岡崎医療センターでは手術麻酔管理が業務の中心となり、年間3000件以上の麻酔管理を行います。医師働き方改革・タスクシフトの推進など麻酔科医を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、本学における診療・教育・研究に、なお一層奮励努力精進してまいります。

今後も「その時、いちばん動ける藤田学園」に向けて、後進の育成に努めていく所存です。これまで多くのご指導いただきました諸先輩方に、心より感謝いたします。今後とも何卒変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医学部 消化器外科学講座 主任教授を拝命して

医学部 消化器外科学　講座教授
勝野 秀稔（19回生）

このたび、2026年5月1日付で藤田医科大学 医学部 消化器外科学講座 主任教授を拝命し、ばんたね病院へ赴任いたしました。この場をお借りして、藤医会の先生方ならびに関係各位に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1996年に本学を卒業後、丸田守人教授、前田耕太郎教授のもとで大腸外科医として研鑽を積み、「外科医とはメスを持った内科医である」という教えを胸に、診療・研究・教育に携わってまいりました。大学病院での研修後には東京都済生会中央病院、足利赤十字病院で外科診療を学び、その後大学院へ進学し、大腸癌患者の免疫動態に関する研究で学位を取得いたしました。

博士号取得後には、英国Edinburgh Western General HospitalおよびImperial College Londonへ留学する機会をいただきました。言語や文化の違いに戸惑いながらも、臨床と研究の両面で貴重な経験を積むことができ、現在の外科医人生の礎となっています。特に、欧米では大腸外科が悪性疾患のみならず、炎症性腸疾患、機能性疾患など幅広い領域を包括していることを学び、現在の診療理念にも大きな影響を受けました。

帰国後の2009年には、宇山一朗教授が全国に先駆けて導入されたda Vinci Surgical Systemによる本邦初の直腸癌ロボット支援手術を花井恒一教授とともに経験する機会に恵まれました。当時は自費診療の時代であり、症例数も限られていましたが、2018年の保険収載以降、ロボット支援手術は急速に普及し、現在では大腸癌に対する重要な低侵襲治療の一つとなっています。これまで多数のロボット支援手術に携わるとともに、全国の施設でプロクターとして手術指導にも従事してまいりました。また、クローン病に対するKono-S吻合や、便失禁に対する仙骨神経刺激療法にも積極的に取り組んでおります。

2020年4月からは守瀬善一教授が主宰する外科学講座に所属し、岡崎医療センター開院事業に携わりました。新型コロナウイルス感染症流行下での開院という困難な状況ではありましたが、西三河地域の先生方のご支援のもと、地域連携を構築しながら消化器外科診療体制を整備してまいりました。2022年3月には臨床教授を拝命し、ロボット支援手術を含む低侵襲手術の普及や人材育成に取り組むとともに、2023年9月からは副院長として病院経営および手術部運営にも従事し、安全かつ効率的な手術室運営や医療体制整備に携わる機会をいただきました。診療のみならず、マネジメントの観点からも多くの学びを得た6年間であったと感じています。

ばんたね病院は、藤田学園の医学部創設とともに開設され、地域医療を支える本学の重要な基幹病院です。大正時代から地域医療・救済事業に尽力されてきた坂文種報徳会の理念を受け継ぎ、長年にわたり名古屋市西南部地域の医療を支えてきました。奇しくも、「藤田学園名古屋保健衛生大学ばんたね病院」の開設日は1971年10月1日、私は同年10月7日に生を受けており、このたびの赴任に不思議なご縁を感じております。今後は消化器外科学講座の主任教授として、消化器外科診療のさらなる発展に努めるとともに、若手外科医の育成、臨床研究の推進、地域医療への貢献に尽力してまいります。また、藤田医科大学の三病院それぞれの特色を生かした連携を深め、学園全体の発展にも寄与したいと考えております。

末筆ながら、これまでご指導・ご支援を賜りました諸先生方、同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

医学部皮膚科学ばんたね病院（美容皮膚科、レーザー治療）臨床教授を拝命して

藤田医科大学ばんたね病院 皮膚科学　教授
秋田 浩孝（18回生）

この度、2026年5月1日付で藤田医科大学ばんたね病院皮膚科学臨床教授を拝命いたしました。就任にあたり、主任教授である杉浦一充教授、ばんたね病院院長の堀口明彦教授をはじめ、これまでご指導、ご支援を賜りました諸先生方、藤医会会員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

私は名古屋市東区出身、私立東海高等学校を卒業し、1995年に藤田保健衛生大学（現、藤田医科大学）を卒業いたしました。同年5月、故　上田　宏教授が主宰される皮膚科学講座に仮入局し、研修医として藤田保健衛生大学病院に入職いたしました。研修医終了後、正式に皮膚科学講座に入局とともに大学院に進学し、ラテックスアレルギーの実態調査を中心とした皮膚アレルギー研究に取り組み、2001年に学位を取得いたしました。

現在私の専門分野であるレーザー治療・美容皮膚科との出会いは研修医1年目に遡ります。

第13回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会（栃木）において、当時本学会理事（のちの理事長）であった松永佳世子講師（現、皮膚科名誉教授）、梅村芳樹講師（当時医局長）とご一緒する機会をいただきました。そのご縁から同年に梅村医局長とともに京都城北病院形成外科（鈴木晴恵先生:現、鈴木形成外科　小児科）を訪問し、レーザー治療を見学したことが本分野に進む契機となりました。

その後、1997年4月から2001年5月まで、大学院での研究日などを活用し、週1回京都城北病院で研修および診療に携わりました。さらに研修先の先生方のご推薦により、2002年4月より2004年3月まで米国ボストンのWellman Laboratories for Photomedicine (現、Wellman Center for Photomedicine: Department of Dermatology, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School)に2年間Research Fellowとして研究（太田母斑に合併する眼球メラノーシスに対するレーザー治療法開発）に従事する機会を得ました。

2004年の帰国後、藤田医科大学病院皮膚科にて皮膚科レーザー外来を開設し、2016年にはばんたね病院において皮膚科レーザー外来を開設し診療・研究・教育に携わっております。

診療では保険診療による各種「あざ」の治療を中心に、自費診療による各種「シミ」のレーザー治療も行っております。色素レーザー、Qスイッチレーザー、光治療器（Intense Pulsed Light:IPL治療）、炭酸ガスレーザーなどを用い、患者さま一人ひとりに適した治療を提供しております。

とくに小児「あざ」治療に力を注いでおり、2歳までの治療完了を目標に、早期治療の重要性について啓発活動にも取り組んでおります。また乳児血管腫の診療では小児科との連携のもとレーザー治療に加えてプロプラノロール内服療法も実施していただいております。

研究・教育面においては専門領域学会に積極的に参加しております。日本皮膚科学会では美容皮膚科・レーザー指導専門医委員会の資格担当長を務め、日本臨床皮膚外科学会では理事長を拝命いたしました（2015年12月～2021年12月）。また、2024年8月には第42回日本美容皮膚科学会総会・学術大会の大会長を務めさせていただきました。留学にてお世話になった先生方4名に加え、藤医会の先生から藤田　潔先生（桶狭間病院藤田こころケアセンター）、石川清仁先生（ばんたね病院泌尿器科教授）にもご講演をいただき、台風の中ではありましたが多くの皆様のご参加のもと盛況裡に終えることができました。

近年「直美」という言葉に象徴されるように、美容医療を取り巻く環境は大きく変化しております。しかし安全で質の高い医療を提供するためには、皮膚科学および関連領域における十分な研鑽が不可欠であると考えております。ばんたね病院ではこれまで岐阜大学、福井大学、秋田大学皮膚科などから国内留学・研修を受け入れてまいりました。これからも皮膚科学講座および藤田医科大学の発展に貢献していく所存です。

最後になりましたが、これまで支えてくださったすべての皆様に深く感謝申し上げます。ま今後も初心忘れることなく診療・研究・教育に一層精進してまいりますので、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

藤医会新任副会長のご紹介

藤田医科大学　保健衛生学部　学部長
藤田医科大学　副学長
藤田医科大学病院　腎臓内科　教授
長谷川 みどり（9回生）

この度、藤医会副会長を拝命いたしました、医学部9回生の長谷川みどりです。

私は卒後2年間の初期研修および1年間のトヨタ記念病院への出向を除き、藤田医科大学で腎臓内科を専門として歩んでまいりました。2016年2月から2025年3月までは大学病院医療連携福祉相談部部長として、地域医療連携や患者支援に関するさまざまな課題に向き合ってまいりました。その中で、母校の卒業生の皆様から温かいお声掛けや励ましをいただき、多くの場面で力添えをいただきました。卒業生同士のつながりの心強さとありがたさを実感した貴重な経験でした。

現在は、看護学科とリハビリテーション学科から成る保健衛生学部長を務めており、ここでも学部の枠を超えて多くの卒業生の皆様に支えられております。学園が発展を続ける中、卒業生の皆様は大学や地域医療をはじめ、さまざまな分野で活躍されており、その存在は本学の誇りです。また、医療現場や社会が大きく変化する中、それぞれの立場でさまざまな課題や悩みに向き合いながら歩んでおられることと思います。藤医会が卒業生同士をつなぎ、励まし合い、寄り添い合える心の拠り所であり続け、その輪の広がりが大きな力となっていくことを願っております。

微力ではございますが、藤医会のさらなる発展に尽力してまいりますので、ご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

藤田医科大学 医学部　腎泌尿器科学　教授
藤田医科大学病院　医療連携福祉相談部　部長
藤田医科大学病院　国際医療センター　フジタエグゼクティブクラブ統括責任者
佐々木 ひと美（16回生）

この度藤医会副会長を拝命しました16回生の佐々木ひと美です。

現在は藤田医科大学本院で腎泌尿器外科臨床教授及び医療連携福祉相談部部長として日々楽しく仕事をさせていただいております。

またフジタエグゼクティブクラブ統括責任者として藤田を愛してくださるVIPの皆様の健康を守る国際医療センターのエグゼクティブアドバイザーも務めています。医学部を卒業してしばらくは同窓会の大切さを感じないことも多いかと思いますが、年齢を重ねるたびに同級生だけではなく先輩後輩の繋がり、藤田の卒業生としての誇りを感じるようになりました。藤田医科大学で培った優しさの医療とチームワークの良さは私たち藤田っ子の特徴ではないでしょうか。

これからも藤医会の先輩方の藤田愛を感じながら後進への架け橋となれるよう努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年度
（2025年度）

藤医会総会 議事録

日時 令和8（2026）年2月14日（土）
場所 名古屋観光ホテル　3階　楠の間

16時30分　定刻開会
開会宣言
今年度逝去された藤医会会員へ、参加者全員で黙祷。
会長より議長を副会長大槻に指名、承認。
代議員全33名中、会場参加16名、委任状17名（すべて会長委任）により、本総会成立を宣言。

第1号議案

令和７年度活動報告

・知多、宮崎、神奈川、広島、東尾張、北海道、福岡、大阪、東京、東名古屋の各支部会の他、72会（1972年入学生の会）、24回生25周年記念の同期会も開催。
・福岡と大阪支部会は星長理事長、東京支部会は湯澤副理事長にご参加いただいた。
・ホームカミングデー後の藤医会二次会には、藤田学園より湯澤副理事長、白木理事、今泉理事のご参加に加え、若手卒業生も多数参加いただき盛況であった。

第2号議案

令和７年度会計報告　（審議）⇒「全員賛成で承認」

・令和7年収支計算書の概要説明
・機関誌発刊費用の予算超過は、令和6年冬号の発刊遅延による年度を跨いだ支払計上。

第3号議案

令和８年度活動計画・予算案　（審議）⇒「全員賛成で承認」

・活動計画および予算案の概要説明
・2026ホームカミングデーは令和8年10月24日に開催予定。例年同様に藤医会二次会を予定。

第4号議案

支部会訪問

・令和8年度の日程予定を提示、周知した。
・昨年同様に学園役員にも参加要請。
・神奈川支部より;家族参加も歓迎するのでぜひ参加いただきたい。

第5号議案

藤医会理事

（1）現理事解任の審議
現理事の加納秀記氏においては、招集通知への無返答、理事会や総会への出席皆無などが続き、藤医会定款第21条（役員の退任）にもとづき、理事会および社員総会において理事の解任決議が承認された。なお同氏においては当会会員として、当会および本学の発展のため引き続きご協力を依頼した。

（2）新理事選任の審議
令和7年12月6日開催の藤医会理事会において、会長堀口明彦より2名（西澤春紀（正会員）、髙橋和男（正会員））を理事として推挙。参加理事全員により異議なく承認された。本総会においては改めて議長より本件経緯を説明し、出席代議員の全員賛成を以って承認され、藤医会定款第13条第3項にもとづき両名を藤医会理事に選定した。

第6号
議案

奨学金についての報告

学園同窓会奨学金における医学部学生の利用割合が高く、特に医学部学生の可及的早急な救済の必要性から、令和7年には臨時救済措置として100万円の追加賛助を行った。本来、奨学金制度の運用は経営母体側（学園側）であることから、藤田学園執行部と藤医会・学園同窓会との間で協議を重ね、藤田学園での学費援助・補助体制の構築を依頼している。学園同窓会においては、令和8年に奨学金制度を終了し、今後は現在の貸付者のみ対応していく予定。

本件に関しては出席代議員より追加発言をいただいた。

・本来、生活費補助として開始した奨学金制度が、学費補填とされている現状を示したうえで、会員からの会費で運営する同窓会が奨学金事業を行うことは適切でない。

・大学病院収入で授業料を補填する現状の脆弱性を示したうえで、危機管理の観点も踏まえた奨学金制度を学園本部と同窓会が連携して強化すべきである。

第7号
議案

名簿発刊に関する報告

・令和2年度以降休刊している藤医会名簿の発刊について、名刺広告での協賛費を募集し、希望者に限定した名簿販売を行う。

・発刊時期については、令和9年度に本学で実施する医学教育分野別評価の受審に際して卒業生名簿データ（所在追跡）が必要となることから、令和9年5月を目途に発刊する。

・名古屋支部名簿発刊については、1年遅れて令和8年12月に発刊する。

・今後郵送する確認ハガキへの回答、名刺広告の協賛へのご協力を要請。

第8号
議案

大学近況報告

・昨年の国家試験、国試結果、卒業生就職先等を報告。今年の国家試験結果は、現在調査中。

・令和6年に橋渡し研究支援機関に認定され、岩田学長主導のもと研究体制を強化している。また、医療法上の『臨床研究中核病院』の認定取得を目指している。

・令和9年4月には医学部内に『医工共創学科』を新設予定。学士と修士課程を含めた6年制課程を想定。（定員:30名、受験資格:高校卒業以上、学士課程:4年、修士課程:2年）

第9号
議案

学園同窓会活動報告

・学生専用バス運営支援として、100万円を寄付。

・2027ホームカミングデーは総長藤田啓介先生の生誕100周年にあたり、例年を上回る卒業生が参加、大盛況であった。

・2026ホームカミングデーは、令和8年10月24日に開催予定。

第10号
議案

その他

（1）藤医会副会長選任の審議

令和7年12月6日開催の藤医会理事会において、会長堀口明彦より2名（佐々木ひと美（正会員）、長谷川みどり（正会員））を副会長として推挙。参加理事全員により異議なく承認された。

本総会においては改めて議長より本件経緯を説明。出席代議員の全員賛成を以って承認され、藤医会定款第13条第3項にもとづき両名を藤医会副会長に選定した。

17時45分　閉会宣言・終了
（総会参加者:代議員16名　陪席者9名）

書記：青木（藤医会事務局）
文責：篠﨑・松山

令和7年度　藤医会 収支計算書

自　令和７年　１月１日
至　令和７年12月31日

収入の部

（単位：円）

科　目	予算額	決算額	増減	摘　要
会費収入	18,000,000	18,000,000	0	令和７年度入学生１２０名
雑収入	2,000,000	2,234,072	234,072	東京海上保険事務手数料　2,218,926円 受取利息7,735円　その他7,411円
前年度繰越金	106,740,471	106,740,471	0	
合　計	126,740,471	126,974,543	234,072	

支出の部

科　目	予算額	決算額	増減	摘　要
1. 会報、会員名簿の発行				
会誌発行費	1,800,000	3,131,512	1,331,512	山菊印刷、サラト
50周年記念誌作成費	8,000,000	5,556,033	△ 2,443,967	50周年記念誌
名簿作成費	1,500,000	0	△ 1,500,000	名簿維持管理費
2. 会員の福利厚生				
藤田学園同窓会費	3,600,000	3,600,000	0	藤田学園同窓会へ（１２０名分）
全国私立医科大学同窓会費・支部訪問費	2,000,000	2,414,137	414,137	会費、旅費、宿泊費等
研修医助成金	500,000	500,000	0	研修医補助金
3. 医学部と在学生への支援				
寄附金	5,000,000	0	△ 5,000,000	藤田学園その他、学会賛助費（史跡保存目的を含む）
医育助成基金	750,000	750,000	0	藤医会医育助成基金（医学部管理）
海外留学生助成基金	750,000	750,000	0	藤医会国際交流基金（医学部管理）
教育企画室賛助費	1,000,000	1,000,000	0	医学教育基金（医学部管理）
国試対策助成費	1,000,000	1,000,000	0	藤医会国試対策（医学部管理）
里親制度助成金	500,000	284,920	△ 215,080	研修希望学生の補助
奨学金積立金	2,000,000	0	△ 2,000,000	学生のための奨学金積立
学生・会員向け備品費	500,000	0	△ 500,000	
4. その他の事業				
総会会議費	5,000,000	2,587,259	△ 2,412,741	総会費、会議費等
藤医会室賃貸料	200,000	200,000	0	藤田医科大学2号館201
地代家賃	100,000	0	△ 100,000	駐車場代
慶弔費	1,500,000	160,154	△ 1,339,846	祝賀会、葬祭費等
通信費	700,000	177,374	△ 522,626	LAN、NTT、郵送費等
事務用消耗品費	500,000	235,051	△ 264,949	用紙代、事務費等
事務人件費	1,200,000	154,800	△ 1,045,200	
租税公課	100,000	71,000	△ 29,000	法人税等
顧問料	924,000	985,344	61,344	
雑費	500,000	163,171	△ 336,829	振込手数料等
5. 予備費	500,000	0	△ 500,000	
6. 次年度繰越金	86,616,471	103,253,788	16,637,317	
合　計	126,740,471	126,974,543	234,072	

令和7年度　活動報告

令和7年 ２月10日(月)	・卒業生ガイダンス
２月15日(土)	・第21回藤医会総会・卒業生教授就任記念講演会・懇親会 （名古屋観光ホテル 林　正道 教授・岸　太郎 教授）
３月９日(日)	・藤田学園合同卒業式
４月４日(金)	・新入生ガイダンス
４月６日(日)	・藤田学園合同入学式
４月12日(土)	・知多支部会
５月17日(土)	・名古屋支部総会
６月７日(土)	・藤田学園同窓会総会
６月14日(土)	・宮崎支部会
６月21日(土)	・神奈川支部会
６月28日(土)	・広島支部会
7月	・藤田医科大学医学部創立50周年記念誌発刊
７月５日(土)	・北海道支部会
７月５日(土)	・福岡支部会
７月26日(土)	・大阪支部会
８月	・藤医会機関誌夏号発刊
９月６日(土)	・東名古屋・尾張支部会
９月27日(土)	・第32回全国私立医科大学連絡会西部会 （主幹：関西医科大学医学部同窓会　リーガロイヤルホテル大阪）
10月４日(土)	・第33回全国私立医科大学連絡会 （主幹：川脇医科大学同窓会　ホテルグランヴィア岡山）
10月19日(日)	・白衣式
10月25日(土)	・ホームカミングデー、藤医会二次会 （ANAクラウンプラザグランコート名古屋）
11月15日(土)	・東京支部会
12月６日(土)	・藤医会理事会（ANAクラウンプラザグランコート名古屋）
12月	・藤医会機関誌冬号発刊

※執行部会は、毎月1回以上開催

令和8年度　藤医会 収支予算案

自　令和８年　１月１日
至　令和８年12月31日

収入の部

（単位：円）

科　目	予算額	摘　要
会費収入	18,000,000	令和８年度入学生120名
雑収入	2,000,000	東京海上保険事務手数料等　2,000,000円
前年度繰越金	103,253,788	
合　計	123,253,788	

支出の部

科　目	予算額	摘　要
1. 会報、会員名簿の発行		
会誌発行費	2,500,000	山菊印刷、サラト
名簿作成費	1,500,000	名簿維持管理費
2. 会員の福利厚生		
藤田学園同窓会費	3,600,000	藤田学園同窓会へ（120名分）
全国私立医科大学同窓会費・支部訪問費	3,000,000	会費、旅費、宿泊費等
研修医助成金	500,000	
3. 医学部と在学生への支援		
寄附金	5,000,000	藤田学園その他、学会賛助費（史跡保存目的を含む）
医育助成基金	750,000	藤医会医育助成基金（医学部管理）
海外留学生助成基金	750,000	藤医会国際交流基金（医学部管理）
教育企画室賛助費	1,000,000	医学教育基金（医学部管理）
国試対策助成費	1,000,000	藤医会国試対策（医学部管理）
里親制度助成金	500,000	
奨学金積立金	2,000,000	学生のための奨学金積立
学生・会員向け備品費	500,000	
4. その他の事業		
総会会議費	5,000,000	総会費、会議費等
藤医会室賃貸料	200,000	藤田医科大学2号館201
地代家賃	0	駐車場代
慶弔費	1,500,000	祝賀会、葬祭費等
通信費	700,000	LAN、NTT、郵送費等
事務用消耗品費	500,000	用紙代、事務費等
事務人件費	0	
租税公課	100,000	法人税等
顧問料	1,000,000	
雑費	500,000	振込手数料等
5. 予備費	500,000	
6. 次年度繰越金	90,653,788	
合　計	123,253,788	

令和8年度　活動予定

令和8年

２月９日(月)	・卒業生ガイダンス
２月14日(土)	・第22回藤医会総会・卒業生教授就任記念講演会・懇親会 （名古屋観光ホテル 早川　和恵 教授・小林　隆 教授・大杉　泰弘 教授）
３月８日(日)	・藤田学園合同卒業式
４月10日(金)	・新入生ガイダンス
４月12日(日)	・藤田学園合同入学式
５月30日(土)	・名古屋支部総会
６月６日(土)	・神奈川支部会
６月６日(土)	・藤田学園同窓会総会
６月27日(土)	・広島支部会
６月27日(土)	・宮崎支部会
７月４日(土)	・北海道支部会
７月11日(土)	・大阪支部会
８月１日(土)	・鹿児島支部会
８月	・藤医会機関誌夏号発刊
８月29日(土)	・東名古屋支部会
９月12日(土)	・福岡支部会
10月17日(土)	・第33回全国私立医科大学連絡会西部会 （主幹：福岡大学医学部同窓会）
10月18日(日)	・白衣式
10月24日(土)	・ホームカミングデー、藤医会二次会 （ANAクラウンプラザグランコート名古屋）
11月７日(土)	・東京支部会
11月14日(土)	・第34回全国私立医科大学連絡会 （主幹：自治医科大学医学部同窓会）
12月５日(土)	・藤医会理事会（ANAクラウンプラザグランコート名古屋）
12月	・藤医会機関誌冬号発刊

※執行部会は、毎月1回以上開催予定

藤医会卒業生教授就任
記念講演会・懇親会

卒業生教授就任記念講演会

日時 令和8年2月14日(土) 午後6時～7時

会場 名古屋観光ホテル 3階 楠の間

座長 堀口 明彦（藤医会会長）

講演Ⅰ

医学部整形外科学　教授　**早川 和恵**（12回生）

演題名：**女性整形外科医の軌跡とこれから**
―臨床教授を拝命して―

講演Ⅱ

ばんたね病院消化器内科　教授　**小林 隆**（13回生）

演題名：**出会いと導きに感謝して、今**

講演Ⅲ

医学部総合診療科　教授　**大杉 康弘**(27回生)

演題名: **藤田医科大学における総合診療科のあゆみ**

卒業生教授就任懇親会

時間 **午後7時～8時30分**　会場 **名古屋観光ホテル 3階 桂の間**

司会 **篠﨑 仁史**(藤医会副会長)

挨拶 **堀口 明彦**(藤医会会長)・**近松 均**(藤医会名誉会長)

乾杯 **黒田 誠**(藤医会名誉会長)

・歓談　・花束贈呈&新教授挨拶(3名)

Branch Society News

支部会だより

東京支部会

日時：2025年11月14日（金）19:00～
場所：京王プラザホテル

令和7年11月14日、京王プラザホテルにて、藤医会東京支部会が開催されました。当日は、藤医会東京支部長平野功先生のお声掛けの下、1回生から42回生まで、27名の先生方にご参会を頂くことができました。当日は来賓として学校法人藤田学園副理事長　湯澤由紀夫先生のご臨席を賜り、「今の藤田」を解説して頂き、参加者一同、隔世の感を抱くと共に、遠くから望む故郷に思いを馳せました。また、藤医会本部からは、名誉会長の黒田誠先生、会長の堀口明彦先生、副会長の篠﨑仁史先生、藤田学園同窓会会長松山裕宇先生、愛知からは、米田敬先生のご臨席も賜りました。藤田のacademiaとしての発展に胸を躍らせた後は、平野先生より「かかりつけ医機能報告制度」に関する概要説明があり、医療を取り巻く社会環境の厳しさに一抹の不安を覚える場面もありましたが、盛会のうちに一次会を終えることが出来ました。二次会は、恒例の京王プラザホテルメインバーBrillantに移動。年次の壁を越えて、懐かしい豊明生活に花を咲かせる一夜となりました。今回は42回生（！）の先生お二人にご参加頂くことが出来ました。これを契機に、より多くの先生方にご参加頂けるよう、東京支部として趣向を凝らして参りたく思います。

（24回生　眞鍋雄太）

ご参加いただいた先生

貝山　仁 先生（1）・丹治　英明 先生（3）・吉岡　巌 先生（3）・高橋　由光 先生（4）・平野　功 先生（4）
三輪　正人 先生（4）・藤城　敏高 先生（5）・柳井　利之 先生（5）・米田　敬 先生（6）・亀井美登里 先生（7）
柳下　正人 先生（11）・大川原　浩 先生（13）・加藤　忍 先生（14）・桑原　勝孝 先生（16）・森　紳太郎 先生（19）
三島　淳二 先生（20）・平野　資晴 先生（21）・眞鍋　雄太 先生（24）・平野　圭一 先生（25）・矢木　康人 先生（25）
渡部　佳弘 先生（27）・笹倉　渉 先生（29）・庄納　美令 先生（29）・辻川　華子 先生（29）・中村沙智恵 先生（29）
大﨑　卓 先生（31）・堤　聡志 先生（42）・水野　泰昭 先生（42）

藤田学園 副理事長　**湯澤由紀夫 先生**
藤医会　黒田　誠 先生（1）・堀口明彦 先生（7）・松山裕宇 先生（6）・篠﨑仁史 先生（13）　事務局　青木珠実 様

北陸支部会

日時：2026年5月9（土）18:00～
場所：ANAクラウンプラザホテル金沢

感染や震災の影響で自粛延期していました北陸支部会が7年ぶりに再開されました。幹事向出先生のお声かけで支部会長洞庭先生をはじめ10名が集まり、久々の再会に笑顔が溢れ、さっそく会話が弾みました。全体的な流れはやはり震災にまつわる苦労話が多い中、震災の影響が多く残る珠洲市でご活躍の大貫先生からは「雰囲気を暗くしてはいけない」と、多彩な話題で明るく盛り上げていただきました。地域的に人材確保に難渋していることや、自身が開業しているクリニックをどのように承継していこうかと悩んでいる話題など、終始会話が途切れることがない宴席でした。

今回の支部会再開を機に、より幅広く北陸地区の卒業生に集まっていただけるよう祈願し、無事に宴会を終えました。来年以降もご無理のないよう、継続開催を心より期待しています。

（15回生　篠﨑仁史）

ご参加いただいた先生

多田　利男 先生（1）・洞庭　賢一 先生（1）・薗田　匡子 先生（9）・森田　知史 先生（11）・上出　真一 先生（15）
高澤　雅至 先生（21）・大貫　和徳 先生（25）・向出　大介 先生（25）・深澤奈都子 先生（27）

藤医会　篠﨑　仁史 先生（15）

名古屋支部会

2026年度名古屋支部総会
日時：2026年5月30日（土）
場所：藤田医科大学 ばんたね病院

2026年5月30日、ばんたね病院西棟第一会議室で2026年名古屋支部総会が開催された。最も会員数の多い(710名)名古屋支部であるが、緑区、中川区以外の区では懇親会の開催が少ないため、是非、各区医師会などで連絡をとりあい、各区部会で懇親を開催し、情報交換の場としていただければと思います。また、コロナ禍以来、総会をホテルで開催していないため、来年度は総会の後、懇親会ができるように準備しますので、多くの会員の皆様に参加していただければと思います。

総会の議事はスムースに進められ、総会終了後、講演会を開催した。堀口明彦の後任で2026年5月1日付で医学部消化器外科学講座主任教授に就任された勝野秀稔先生に「藤田学園とともに歩んだ消化器外科～本院・岡崎からばんたねへ～」の演題名で講演していただいた。保険収載される以前から、ロボット支援手術に取り組み、海外での研鑽を積んだ後、ロボット支援結腸手術、直腸手術の普及を全国各地で指導してこられた道のりについて、大変わかりやすく講演していただいた。講演後、多くの質疑応答があり、有意義な講演会になりました。勝野先生はロボット手術のパイオニアとして、藤田医科大学病院群全ての臨床・研究・教育を経験するという、まさに、“卒業生の星”であり、新天地ばんたね病院でますます活躍していただけることを確信しました。

（藤医会名古屋支部長　7回生　堀口明彦）

支部からのお知らせ

第10回 福岡支部会

日　時 9月12日(土)　受付 18:30～　開会 19:00～
場　所 ホテル日航福岡 本館5F「志賀」　**会　費** 21,000円（通信費・記念写真代などを含む）

《 申込締切：8月25日(火) 》

お問合せ先 E-mail：five-pennies@tsm.bbiq.jp　幹事：柳瀬 晃(7回生)

第10回の節目の年、より多くの皆さまと共に盛会にしたいと願っております。
福岡出身で全国でご活躍の方はもちろん、学会や出張で福岡にお越しの方もご参加いただけます。
ご興味のある方はお気軽にお問合せください。

第6回 東京支部総会（東日本ブロック）

日　時 11月7日(土)　受付 18:30～　開会 19:00～
場　所 京王プラザホテル 44F『ハーモニー』　**会　費** 18,000円

《 申込締切：10月24日(土) 》

申込フォーム

お問合せ先 E-mail：toikai.tokyo@gmail.com
支部長 平野 功(4回生)
幹　事 黒田 理佐(21回生)・平野 資晴(21回生)・眞鍋 雄太(24回生)

出身県を問わず、全国でご活躍の皆さまにご参加いただけます。
学会や出張などで東京にお越しの際にも、久しぶりの再会や新しい繋がりの場として、ぜひ気軽にご参加ください。
各学年・部活のSNSグループでも、ぜひ情報をシェアいただけますと幸いです。

第1回生 同窓会

日　時 2026年5月23日（土）
場　所 ANA Crowne Plaza ホテルグランコート

72会を今年も開催できました。
72会は1972年名古屋保健衛生大学医学部（現藤田医科大学医学部）に1回生として入学した同級会です。幹事は持ち回りで全国のいろいろなところで開催しています。今年は5月23日（土）名古屋の金山、ANA Crowne Plaza ホテルグランコート名古屋の中華料理店「花梨」で行いました。久しぶりの名古屋での開催でした。参加者は鹿児島、仙台、新居浜など全国から31名が集まり、懐かしい話で盛り上がりました。参加できなかった他の仲間の話も出たりしましたが、「活躍する範囲を少し制限している。」「子供たちが医院の後を面倒見てくれている。」「まだ現役で頑張っている。」「少し動くのがつらい。」など様々でした。いずれにしても50年近く社会で医師としての役割を果たしてきた重い言葉でした。参加者は「元気をもらった。」と来年金沢での再会を楽しみにしていました。　　72会幹事　松井俊和

ご参加いただいた先生

松井　俊和 先生、黒田　　誠 先生、三木　芳夫 先生、三木　知子 先生、村上　悦士 先生、江崎　淳次 先生、大西　正純 先生、
平野　　清 先生、中本　雅久 先生、永田　淳二 先生、貝山　　仁 先生、芳賀　鉄也 先生、仲西　直治 先生、久保田研喜 先生、
伊佐治秀孝 先生、山田　和彦 先生、鷲見　信清 先生、瀬戸　　明 先生、清水　鈴昭 先生、真鍋　　豊 先生、松下　兼弘 先生、
前田　洋一 先生、平岩　紀子 先生、野川　秀利 先生、内藤　健晴 先生、梅村　春彦 先生、浅野　経生 先生、松本　修一 先生

第5回生 同窓会

日　時 2025年5月17（土）
場　所 滋賀県大津市雄琴温泉里湯昔話雄山荘

2025年5月17日滋賀県大津市雄琴温泉里湯昔話雄山荘にて第5期生の同窓会を執り行いました。卒業以来43年の月日が経ちみなさんの様相は変化しておりますが宿泊施設の名前の如く昔話に花が咲き40数年の時間が戻りました。前回は2008年に岐阜で行い出身地が東海地区の方が多いため40名くらいの出席がありましたが今回は初めて東海地区から出ての同窓会であり21名の出席とやや寂しさを感じました。大学から遠く離れたところでの同窓会でしたが会場から徒歩5分のところで開業している方、遠くは鹿児島、四国からも出席いただき、また後期高齢者になっている同級生もいらしたのですが皆さん元気に出席していただきました。出席している方は基本元気で仕事をしており話が尽きない様子でした。仕事の関係で日帰り出席の方もいましたが短い時間ではありましたが楽しんで帰って行かれました。

泊りの先生方は夜中まで飲みながら話が尽きませんでしたが、先回のように2時3時までは続かず年齢を感じざるを得ませんでした。

次回は多くの方の出席を期待して東海地区での開催を約束して解散となりました。　　幹事　川上　明

第7回生 同窓会

日　時 2026年3月7日（土）
場　所 名古屋マリオットアソシアホテル

1978年名古屋保健衛生大学医学部入学（7回生）の同窓会（78会）は毎年3月第1週土曜日に開催しています。今年は2026年3月7日名古屋マリオットアソシアホテルで開催されました。入学時に出会ってから48年が経過し、それぞれで活躍されている元気な姿を報告しあっています。この学年は大変まとまったクラスであり、毎年約40人強の同窓生が参加します。7回生は全国で活躍されている先生が多く、元厚労省大臣官房付審議官の亀井美登里先生、日本医師会理事をお勤めの福島県の市川陽子先生はじめ、広島県医師会理事の河村りゅう先生、名古屋市医師会理事の鵜飼泰光先生、元豊田加茂医師会長の渡邉真先生など、藤田学園が自慢できる先生方がたくさんいます。今年も遠方からの先生方も参加していただき、元気をもらえる有意義なクラス会になりました。クラスの万年幹事である、千原 克先生のおかげであり、78会一同、感謝申し上げます。

藤医会会長　堀口明彦

「藤医会若手医師を応援する会」を開催しました

藤医会をリードする先生方あるいは、医師会で役員をお勤めの先生方により、卒業生若手医師を応援する会を開催しました。日本医師会常任理事で本年、旭日双光章を受章された4回生の細川秀一先生もご臨席していただきました。諸先輩方から若手医師に対する激励のお言葉をいただき、また若手医師の自己紹介など大変なごやかな雰囲気の会となりました。

母校は、54年の歴史の中で多くの優れた医師を輩出し、地域医療、先進医療、医学研究の発展に貢献してまいりました。そして、その未来をさらに力強く築いていくのは、今まさに第一線で活躍されている若い世代の先生方です。藤医会は、世代を超えて知識と経験をつなぎ、互いに支え合い、母校の理念を未来へ継承していく組織です。若手医師の皆さまが安心して挑戦し、成長し続けられる環境を整えることこそ、藤医会の大切な使命であります。一方、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。働き方、専門性、研究環境、地域医療の課題など、多くの困難に直面することも少なくありません。しかし、どの時代においても、母校で培った志と仲間とのつながりは、皆さまの大きな力になるはずです。藤医会は、若手医師のキャリア形成、研究活動、留学支援、人的交流などを通じて、皆さま一人ひとりの挑戦を応援してまいります。そして、その成長が母校の発展につながり、さらには社会全体の医療の向上へと結実していくことを心より願っています。

今後とも、母校への温かいご支援と同門会活動へのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

藤医会会長　堀口明彦

▶ 2025年度医師国家試験の成績

2025年度（第120回）医師国家試験では、新卒111名中107名が合格し、**合格率96.4%（全国82校中36位）**という結果でした。既卒者を含めた全体では114名中108名が合格し、**合格率94.7%（82校中36位）**となり、**東海地区4大学の中では最も高い成績**を収めました（表参照）。正答率の高い問題を確実に得点できたことが、好成績につながったと考えられます。

今年の卒業生は、入学当初から新型コロナウイルス感染症による行動制限の影響を受け、オンライン授業が続き、課外活動も十分に行えない日々が長く続きました。その後、行動制限が解除されてからは、ようやく日常を取り戻し、学修・課外活動ともに充実した学生生活を送ることができました。

医学教育企画室室長
臨床総合医学　教授　**大槻 眞嗣**

国家試験合格率

	新卒者	合格者数	合格率	全国順位	国試受験者総数	合格者数	合格率	全国順位
第120回（2025年度）	**111名**	**107名**	**96.4%**	**36位**	**114名**	**108名**	**94.7%**	**27位**
第119回（2024年度）	106名	104名	98.1%	18位	110名	107名	97.3%	9位
第118回（2023年度）	120名	117名	97.5%	30位	123名	119名	96.7%	12位
第117回（2022年度）	113名	111名	98.2%	14位	118名	114名	96.6%	10位
第116回（2021年度）	113名	109名	96.5%	32位	117名	112名	95.7%	17位
第115回（2020年度）	104名	102名	98.1%	17位	111名	107名	96.4%	10位
第114回（2019年度）	112名	106名	94.6%	58位	120名	113名	94.2%	41位

2026年就職状況一覧表

	病院(本学)	病院(他大学)	病院(一般)	進学(本学大学院)	進学(大学院)	その他	合計
人数	30名	9名	68名	0名	0名	4名	111名
%	27.0%	8.1%	61.3%	0.0%	0.0%	3.6%	100%

2025年度卒業生の進路（研修先）

愛知県	藤田医科大学病院
	藤田医科大学ばんたね病院
	藤田医科大学岡崎医療センター
大学病院	
愛知県	名古屋市立大学病院
静岡県	浜松医科大学医学部附属病院
京都府	京都府立医科大学附属病院
大阪府	大阪医科薬科大学病院
	大阪大学医学部附属病院
福岡県	福岡大学病院
熊本県	熊本大学病院
一般病院	
愛知県	JA愛知厚生連 海南病院
	JA愛知厚生連 江南厚生病院
	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
	一宮市立市民病院
	岡崎市民病院
	公立西知多総合病院
	公立陶生病院
愛知県	国家公務員共済組合連合会 名城病院
	小牧市民病院
	社会医療法人宏潤会 大同病院
	社会医療法人財団新和会 八千代病院
	総合大雄会病院
	地域医療機能推進機構 中京病院
	知多半島総合医療センター
	津島市民病院
	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター
	独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院
	名古屋記念病院
	名古屋掖済会病院
	西尾市民病院
	日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第二病院
	碧南市民病院
北海道	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
宮城県	大崎市民病院
東京都	社会福祉法人仁生社 江戸川病院
	総合東京病院
東京都	練馬光が丘病院
長野県	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院
岐阜県	公立東濃中部医療センター
静岡県	島田市立総合医療センター
三重県	市立四日市病院
	地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター
京都府	洛和会 音羽病院
大阪府	堺市立総合医療センター
	社会福祉法人 大阪府済生会千里病院
	宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院
	地方独立行政法人 市立東大阪医療センター
	阪南中央病院
福岡県	福岡新水巻病院
大分県	国立病院機構 別府医療センター
鹿児島県	鹿児島県立大島病院
沖縄県	浦添総合病院
	沖縄県立中部病院

藤医会からのご案内

INFORMATION

「令和9年版 藤医会名簿」発行に伴う確認とご協力のお願い

藤医会では、令和9年版の「藤医学会名簿」を発行する運びとなりました。
本名簿の作成にあたっては、安心かつ正確なデータ管理を行うため、名簿作成の専門会社である株式会社サラトへ業務を委託しております。同社との提携は2026年をもちまして20年を迎え、確かな実績と信頼関係を築いてまいりました。会員の皆様におかれましては、どうぞご安心いただき、名簿作成作業への温かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。
なお、今回より、名簿は**「ご希望者のみへの販売形式」**に変更となりました。
8月20日以降、株式会社サラトより皆様のお手元へ「確認ハガキ」および「名簿購入・賛助（名刺広告・広告賛助など）のご案内」を郵送いたします。皆様からいただく最新の情報を基に、より正確な名簿へと仕上げてまいりますので、ご確認いただけますと幸いです。

名簿発行の概要

- **発行予定日**：令和9年（2027年）5月下旬
- **体裁**：B5判
- **頒布価格**：5,500円（送料・消費税込み）

名簿発刊までの流れとお願い

1．確認ハガキの送付（8月20日以降）
皆様のご住所へ順次お届けいたします。

2．ご返信が必要な方
以下のいずれかに該当する方は、ご返信をお願いいたします。
- 記載内容に**訂正・変更がある方**
- **名簿の購入**をご希望の方
- **賛助**（名簿発刊賛助・名刺広告・広告賛助）にご協力いただける方

3．お支払いについて
名簿購入・賛助をお申し出いただいた方には、お申し込み後に付属の申込用紙（振込用紙）にてお振り込みをお願いいたします。

2026ホームカミングデー、藤医会二次会のご案内

開催日　2026年10月24日（土）
第一部　キャンパス見学会
第二部　懇親会：17:00～　会場：ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋 7F 『ザ・グランコート』

藤医会二次会

開催日時　2026年10月24日（土）　ホームカミングデー終了後（20：00頃）
会　場　ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋 28F スカイバンケット『クリスタルルーム』
会　費　5,000円

申込等の詳細は、後日郵送にてご案内いたします。

藤医会事務局
住　所　〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98　藤田医科大学2号館 2階
一般社団法人　藤医会（藤田医科大学医学部同窓会）
電　話　①藤田医科大学2号館 2階 藤医会室　0562-93-4025（月～金：午前10時～午後5時）
②藤田医科大学2号館 14階 管理室　0562-93-2794（月～金：午前10時～午後3時30分）
FAX　0562-93-4021

この印刷物は再生紙を使用しています。